

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和8年9月30日

【中間会計期間】 自 令和8年1月1日 至 令和8年6月30日

【発行者の名称】 デンマーク地方金融公庫 (KommuneKredit)

【代表者の役職氏名】 最高経営責任者兼マネジング・ディレクター
Jens Lundager

マネジング・ディレクター
Henrik Andersen

【事務連絡者氏名】 弁護士 黒 丸 博 善
弁護士 海 沼 智 也

【住所】 東京都港区六本木六丁目10番1号
六本木ヒルズ森タワー23階
TMI 総合法律事務所

【電話番号】 東京(03) 6438-5511

【縦覧に供する場所】 該当なし

第1【募集（売出）債券の状況】

売出債券の名称	発行年月	券面総額	前事業年度末 の未償還額	当該半期中 の償還額	当該半期末 の未償還額
デンマーク地方金融公庫 2027年7月30日満期 トルコ・リラ建 ディスカウント債券	2012年7月	2,500万 トルコ・リラ	2,500万 トルコ・リラ	0	2,500万 トルコ・リラ

2026年上半期中において、上記債券の所有者の権利等に重要な悪影響を与える事実は発生しなかった。

第2【発行者の概況】

注(1) 「公庫」とは、デンマーク地方金融公庫を意味する。

- (2) 本書中、別段の記載がない限り、「デンマーク・クローネ」または「DKK」と表示される金額はデンマーク王国の通貨であるデンマーク・クローネを意味する。2026年9月18日現在、東京の主要銀行により公表されたデンマーク・クローネに対する日本円の為替相場の中値は1デンマーク・クローネにつき24.00円であった。
- (3) デンマーク地方金融公庫の事業年度およびデンマーク王国の会計年度は暦年である。
- (4) 本書中の表で、計数が四捨五入されている場合、合計は計数の総和と必ずしも一致しないことがある。

1【概況】

新しい資金調達モデルが公庫の設立根拠法に明文化

公庫とデンマーク政府との合意に基づき、公庫は2025年6月以降、デンマーク政府を代理してデンマーク国立銀行がデンマーク国債利回りに相当する金利で買い入れる債券のみを発行している。これにより資金調達コストが低下し、顧客に対しさらに低い貸付金利およびリース料を提供することが可能となっている。

この合意は、2026年9月15日に施行された改正により、公庫の設立根拠法に明文化された。これに伴い、新しい資金調達モデルを反映し、公庫のビジネスモデルに内在する限定的なリスクとの均衡を確保するために、公庫を規律する規制およびデンマーク金融監督庁による公庫の財務活動に対する監督が見直された。

2026年上半期の業績

長期にわたり、公庫は地方自治体および州に対する貸付およびリースの金利マージンを引下げてきており、その結果、純受取利息は減少している。2026年5月の直近の金利マージン引下げは、当期における金融商品のプラスの価値調整に寄与した。

収益および自己資本

2026年上半期において純受取利息は総額2億5,000万デンマーク・クローネとなり、前年同期より1億1,800万デンマーク・クローネ減少した。純受取利息は当中間期についての予測と一致している。

当期における管理費用は前年同期の1億100万デンマーク・クローネに対して合計で1億300万デンマーク・クローネとなった。

価値調整前および税引前の当期利益は1億4,600万デンマーク・クローネとなり、前年同期と比べて1億9,200万デンマーク・クローネ減少した。この減少は主に、2025年においては本社の売却があったことと、純受取利息が減少したことによるものであった。

2026年上半期の金融商品の価値調整はプラス1億9,000万デンマーク・クローネとなった。既存の貸付に関するキャッシュフローの公正価値の算定において、公庫は新規貸付の現行金利を割引率として使用している。他の条件が同一の場合、金利マージンの引下げにより割引率がより低くなり、その結果、既存の貸付の公正価値の上昇につながった。

包括利益は、前年同期の1億3,900万デンマーク・クローネの損失に対し、当期は2億6,200万デンマーク・クローネとなり、全額が持分に組み入れられる。これにより持分は103億6,100万デンマーク・クローネとなった。

リスク・エクスポージャー累計額（REA）は、2026年上半期末現在において137億デンマーク・クローネとなり、2025年末現在より23億デンマーク・クローネ減少した。この減少は、主に証券ポートフォリオの

縮小により信用リスクが低下したことが反映されている。この結果、信用機関のソルベンシー要件に基づいて算出された自己資本比率（リスク・エクスポージャー総額に対する自己資本の比率）は、2025年末現在の63%に対して、2026年6月30日現在には75%となった。

貸付およびリース

貸付高（純額）（すなわち、返済額および償還金額を控除した新規の貸付高およびリース）は、2025年上半期には13億デンマーク・クローネであったのに対し、2026年上半期には64億デンマーク・クローネとなった。2026年上半期の貸付高（純額）は予測を9億デンマーク・クローネ上回った。

貸付およびリースの合計額は、2025年末現在から75億デンマーク・クローネ増加して2026年上半期末現在には2,072億デンマーク・クローネとなった。この増加は、額面ベースの貸付の64億デンマーク・クローネの増加に加え、プラスの価値調整が11億デンマーク・クローネを占めた。

資金調達および投資

投資総額（すなわち、信用機関への債権および証券ポートフォリオの額）は、2026年上半期末現在において合計で317億デンマーク・クローネとなり、新しい資金調達モデルに伴う総流動性資金の縮小により2025年末現在と比べて93億デンマーク・クローネ減少した。

資金調達累計額（すなわち、信用機関への債務および発行債券の額）は、貸付増加のための資金調達を行った一方、流動性ポートフォリオを縮小した結果、18億デンマーク・クローネ減少して2,263億デンマーク・クローネとなった。

旧資金調達モデルのもとで発行された未償還債券は資本市場に残存しているが、かかる債券の条件や担保設定が変更されることはない。

当期における資産合計は30億デンマーク・クローネ減少して2,484億デンマーク・クローネとなったが、これは主に総流動性資金の縮小を反映したもので、貸付の増加による相殺は一部にとどまった。

新戦略および組織変更

年初に、公庫は「戦略2029—新たな道の模索」を立ち上げた。同戦略は、知識、効率性および発展に向けた意欲により、デンマークおよびグリーンランドにおける地方自治体および州にとっての最良の資金調達パートナーとしての公庫の地位を強化することを目的としている。顧客が公庫を利用することは容易である必要がある。

この春に、公庫は当該戦略に沿った取組みを支えるために組織体制を見直した。より強力かつ一貫した顧客対応を確保するため、中核事業チームを一つの部門に統合した。さらに、開発機能を一つの部門に統合し、開発への取組みの一層の推進に加え、戦略、事業およびデジタルプラットフォーム（AIを含む）の連携を強化した。さらに、内部統制枠組みに係るガバナンスの強化も図った。

上記の戦略に沿って、春にセルフサービス・プラットフォームであるMitKommuneKreditにおけるサービス機能をさらに拡充した。これにより、顧客は自ら試算を行いリースの申請をすることが可能になった。公庫は、顧客が自身のデータにより容易かつより高い利便性をもってアクセスできるよう努めている。同時に、資金調達に関する意思決定のより強固な基盤を顧客に提供するため、顧客対応の質を向上させる意向である。

公庫全体にわたり新しいAIソリューションが導入され、全従業員にAI研修プログラムが展開された。統制された環境の下でAIソリューションの導入効果が得られる業務プロセスを特定し、優先順位を与える取組みを開始している。

公庫の社会的責任を可視化し、積極的なナレッジ・パートナーとしての役割を強化する取組みの一環として、公庫は自社ウェブサイト上に「Temaer i tiden（注目テーマ）」という新たな情報プラットフォームを構築中であり、地方自治体、州およびその他の関係者の知識、データ、経験ならびに事例を共有する場とする予定である。

企業の社会的責任（CSR）

公庫の全ての貸付とリースは公共的な任務のために提供されるものであり、そのため、気候適応および沿岸防護、公共交通機関、公共施設のエネルギー効率向上、ならびに高齢者向け住宅、地域のスポーツ拠点、学校または地域向け熱供給の設営など、環境保護目的および／または社会的目的を帯びている。公庫は、その貸付およびリースを通じて、福祉およびデンマークを結ぶインフラへの地方自治体および州の投資を支援している。公庫は可能な限り最善の方法で業務を遂行することにより、社会的責任を果たしている。

同時に、コストを可能な限り低く抑えるための前提として、デジタルシステムと良識に基づく効率的な事業運営を行うことが必要である。公庫は、貸付およびリースが法令を常に遵守していること、資源の消費が合理的であること、ならびに気候負荷を抑制しつつ、能力の向上を図り、高い従業員満足度と責任ある行動を特色とした職場環境を整備することを常に確認することで、これを実現している。

2【資本構成】

デンマーク地方金融公庫の資本構成

	2026年6月30日現在
	(百万デンマーク・クローネ)
発行債券（注1および注2）	226,275
デリバティブの公正価値	10,729
その他の負債、年金および税を除く負債合計	237,004
その他の負債、年金および税合計	1,058
負債合計	238,062
持分	
2026年1月1日現在の持分	10,099
税引後当期利益	262
2026年6月30日現在の持分	10,361
資本合計	248,423

注（1） 指数連動債に関して、残高は指数変動による調整を含む。

（2） 外国通貨による借入は、2026年6月30日の実勢為替レート、あるいは2026年中の借入に関しては実行日の為替レートにより、デンマーク・クローネに換算されている。

2026年6月30日以降、公庫の資本構成に重大な変化はなかった。

3【組織】

下記を除いて、2026年上半期中およびそれ以降において公庫の組織に重大な変更はなかった。

2026年1月1日以降、下記の変更があった。

理事会

2026年6月1日より：

マーティン・ダム（理事長）	市 長
トマス・ルゲ・ピーダスン（副理事長）	市 長
ペーター・セーレンセン	市 長
ラーシュ・ストアゴー	市 長
クリスチャン・ヘム	市 長
アストリズ・アラール	地方自治体議会議員
トーモド・オールスン	州議会議員
ギッテ・ブンゴー	州議会議員
ビアギト・オーゴー・スヴェンセン	独立の構成員
スサネ・クーラ	独立の構成員

経営陣チーム

2026年5月1日より：

氏名：	役職：
イエンス・ロンエーヤ	最高経営責任者兼マネジング・ディレクター
ヘンレク・アナスン	マネジング・ディレクター
ヨナス・トフト・モンソン	営業担当最高責任者
ヘレーネ・ヴィンテン	ジェネラル・カウンセル
セーアン・スティーン・モーデンスン	開発担当最高責任者
モーテン・スン	財務責任者
マーティン・ディアク・ヤンセン	リスク責任者
スーネ・ヴォーレルト・スミット	ITセキュリティ・インフラストラクチャー責任者

4【経理の状況】

2026年1月1日から2026年6月30日までの期間の中間財務書類は、公庫の独立監査人であるデロイト公認会計士パートナーシップのHenrik WellejusおよびJens Ringbæk（国家の承認を受けた公認会計士）によりレビューされ、さらに省により任命された監査役であるPer Hansenによりレビューされている。

2026年および2025年6月30日現在または2026年および2025年6月30日に終了した6か月間の公庫の中間財務書類（レビュー済）は、以下のとおりである。

2026年1月1日から6月30日までの期間についての 包括利益計算書

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2026年 上半期	2025年 上半期
受取利息		2,382	2,664
支払利息		-2,132	-2,296
純受取利息		250	368
その他の営業利益		1	78
その他の営業費用		-2	-7
人件費および管理費用		-103	-101
価値調整前当期損益		146	338
金融商品の価値調整		190	-516
税引前当期損益		336	-178
当期損益に係る税金等		-74	39
当期損益		262	-139
その他の包括利益			
保険数理上の損益		0	0
保険数理上の損益に対する税額		0	0
当期包括利益		262	-139
計上先は以下の通り：			
持分への組入		262	-139
合 計		262	-139

2026年6月30日現在の貸借対照表

資 産

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2026年 6月30日現在	2025年 12月31日現在
信用機関への債権		68	139
貸付		196,752	189,348
リース		10,409	10,279
証券ポートフォリオ		31,590	40,860
デリバティブ金融商品		9,560	10,723
その他の資産		27	54
当期税金資産		17	65
資産合計		248,423	251,468

負債および持分

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2026年 6月30日現在	2025年 12月31日現在
信用機関への債務		3	0
発行債券		226,275	228,032
デリバティブ金融商品		10,729	12,302
その他の負債		500	480
当期税金負債		0	0
繰延税金負債		555	555
負債合計		238,062	241,369
持 分		10,361	10,099
負債および持分合計		248,423	251,468

2026年1月1日から6月30日までの期間についての持分変動計算書

(単位：百万デンマーク・クローネ)

注記	2026年 上半期	2025年 上半期
持分		
1月1日現在の持分	10,099	10,188
再評価準備金		
再評価準備金の取り崩し	0	-45
持分への組入		
当期損益	262	-139
その他の包括利益		
保険数理上の損益	0	0
その他の包括利益に対する税額	0	0
その他の包括利益（税引後）	0	0
持分への組入合計	262	-184
6月30日現在の持分	10,361	10,004

当期包括利益は公庫の定款に従い持分（資本）に組入れられる。

持分は、2025年12月31日現在の100億9,900万デンマーク・クローネから2026年6月30日現在には103億6,100万デンマーク・クローネに増加した。2026年6月30日現在、資産に対する持分の割合は4.2%で、これは2025年12月31日現在より0.2%高い。持分は普通株式等Tier1（CET1）資本からなる。

公庫の改正設立根拠法によれば、持分は負債の1%（23億8,100万デンマーク・クローネに相当する。）以上の額でなければならない。理事会が定めた目標によれば、持分は資産の3%以上の額でなければならず、これが公庫の活動を支えるための適切な自己資本と考えられている。

1月1日および6月30日現在の持分には、200万デンマーク・クローネの再評価準備金（純額）が含まれている。

2026年1月1日から6月30日までの期間についての キャッシュフロー計算書

(単位：百万デンマーク・クローネ)

	注記	2026年 上半期	2025年 上半期
税引前当期損益		336	-178
減価償却費、償却費および減損費用		0	0
その他の調整		0	-76
支払法人税		-26	-45
合計		310	-299
純受取利息		-250	-368
受取金融収益		2,382	2,664
支払金融費用		-2,132	-2,296
貸付の変動		-7,535	-4,477
証券ポートフォリオの変動		9,270	4,631
発行債券の変動		-1,757	-6,836
デリバティブ金融負債の変動		-1,573	1,827
デリバティブ金融資産の変動		1,163	2,942
その他の資産の変動		27	6
その他の負債の変動		21	-33
営業活動からのキャッシュフロー		-74	-2,239
その他の資産の売却		0	111
その他の資産の購入		0	0
投資活動からのキャッシュフロー		0	111
財務活動からのキャッシュフロー		-	-
現金・現金同等物残高の変動		-74	-2,128
1月1日現在の現金・現金同等物残高		139	2,344
6月30日現在の現金・現金同等物残高		65	216
詳細は以下のとおり：			
信用機関への預け金		68	216
信用機関への短期債務		-3	0
6月30日現在の現金・現金同等物残高		65	216

注 記

注記1 会計方針

一 般

本中間報告書の対象期間は、2026年1月1日から同年6月30日までである。

中間報告書は、欧州連合（EU）が採用している国際会計基準（IAS）第34号「中間財務報告」および追加的な中間報告開示要件に従い表示されている。

別途記載されていない限り、中間報告書の金額は全て百万デンマーク・クローネ単位で記載されている。記載されている合計額は、四捨五入前の実際のコロネに基き計算されたものである。金額は百万デンマーク・クローネ単位に四捨五入されているため、個別の金額の合算額と合計表示額とで多少の差額が生じる場合がある。

会計方針は、2025年度の年次報告書で適用されている方針から変更されていない。会計方針の全容は年次報告書を参照のこと。

会計方針の変更点

2026年事業年度以降に発効して2026年度の財務報告に影響を与えると考えられる新規のまたは改正された国際財務報告基準（IFRS）および解釈指針はない。

重要な会計上の見積りおよび判断

中間財務書類の作成において、経営陣は多くの会計上の見積りおよび判断を行う。この見積りおよび判断は、経営陣が合理的かつ現実的であるとみなした仮定に基き会計方針に従ってなされるが、これらは本質的に不確定で予測不能である。会計上の見積りおよび判断は、過去の実績および将来の状況の評価が確実に反映されるよう、継続的なプロセスによりテストおよび評価される。

公正価値の算出が市場で直接観測できないインプットに基きする場合、および反対の影響が示されない場合、会計上の見積りおよび判断は財務書類に非常に重要な影響を有するとみなされる。

特に、債券サーキットを構成せずかつ公庫の新しい資金調達モデル以前に発行された発行債券の評価に関する見積りおよび判断は、財務書類に影響を与える可能性がある。これらの債券には活発な市場が存在しないため、その評価には重要な会計上の見積りが用いられる。

一部のデリバティブの評価に用いる見積りおよび判断もまた、市場で直接観測可能な価格が存在しないことから、財務書類に影響を与える可能性がある。一般に認められているキャッシュフローモデルの観測可能なインプットで代用されている。

債券サーキットを構成しないローンの評価において、観測可能な市場が存在せず、それゆえ公庫は独自の現時点の貸付価格を市場価格として適用している。

その他の全ての金融商品について、その評価に重要な見積りは含まれていない。これらの商品には、活発な市場における相場価格が存在するか、または適用される見積りに重要な会計上の影響がないためである。

2025年度の年次報告書の情報と比較して、適用された会計上の見積りに変更点はなかった。金融商品の公正価値に関する会計上の見積りの作成に関する方法および原則ならびに見積りの全容は、2025年度の年次報告書に記載されている。

注記2 貸借対照表日後の事象

貸借対照表日後に生じた重要な事象はない。

注記3 金融商品の公正価値の詳細

IFRS第13号「公正価値測定」に従い、公正価値で測定される金融商品は、その公正価値が決定される方法および基準とするデータによって、公正価値についてのレベル1から3の階層に分類されなければならない。公正価値は、金融資産または金融負債が必要な知識を持つ自発的な取引相手との間で取引されうる価額である。

公正価値は、以下の階層に従い測定される。

レベル1：

同一の資産または負債についての活発な市場における相場価格。

レベル2：

類似の資産もしくは負債についての活発な市場における相場価格に基づくか、または観測可能なインプットにより実質的に基礎付けられるその他の評価手法に基づく、観測可能なインプット。

レベル3：

評価が観測可能なインプットによっては実質的に基礎付けられていない、観測不能なインプット。

レベル2およびレベル3の公正価値は、一般に認められているモデルに基づき評価される。公庫は、A) 流動性、信用リスクおよび転換権について調整された類似の証券の相場価格、ならびにB) 全ての見積みキャッシュフローおよび固定キャッシュフローをゼロクーポン・イールド・カーブ、イールド・カーブおよびオプション・モデルを用いて割引引く割引キャッシュフローモデルの双方を用いている。

A) 公庫は、債券サーキットと称される発行債券および貸付の一部につき、流動性、信用リスクおよび転換権について調整された類似の証券の相場価格を用いている。債券サーキットはモーゲージ信用残高の原則に基づいていることで特徴づけられ、公庫が発行した債券の条件が債券発行により調達された資金による顧客への貸付に直接転嫁され、公庫が定めた貸付マージンが上乘せされる。

債券サーキットにおける証券はナスダック（コペンハーゲン）で発行されているが、債券はその取引頻度および取引量が不十分であるため非流動的である。したがって、相場価格は使用できず、その代わりに、流動性、信用リスクおよび転換権について調整された類似の証券の相場価格が用いられる。類似の証券の例には、類似の特性を有するモーゲージ債または政府債がある。顧客への貸付に対する信用リスクは、発行債券に対応しているため、発行債券の価格は債券発行により調達された資金による貸付にも用いられている。よって、価格変動は損益に影響を与えない。

B) 公庫は、デリバティブ、非流動的とみなされる発行債券の上記以外の部分、および公正価値で評価されるが債券サーキットを構成しない貸付につき、割引キャッシュフロー法を用いている。

レベル2の公正価値の算出には、スワップレート、為替ベースス・スワップ・スプレッド、テナー・スプレッドおよび為替レート等の観測可能なインプットが含まれている。また、発行債券の評価は公庫の現時点の資金調達コストについての見積りを含む。公庫はデンマーク国債利回りに相当する金利で資金調達を行っているため、国債利回りが公庫の現時点の資金調達コストとして使用されている。貸付の評価には、公庫の現時点の貸付価格が含まれる。公庫は、見積もられた現時点の資金調達コストに応じて現時点の貸付価格を定期的に調整することにより、貸付マージンを比較的一定の水準に保つよう努めている。現時点の資金調達コストの変動は、現時点の貸付価格の変動により一部相殺されることになる。

公庫のごく一部の発行債券およびデリバティブは、公正価値レベル3に分類されている。当該レベルは、発行済仕組債および関連するヘッジ・デリバティブに用いられており、そのインプットは、公正価値レベル2に適用されるインプットに加えて、通貨、株式およびコモディティのボラティリティならびにそれらの相関といった観測不能なインプットから成る。

発行済仕組債はデリバティブによりマイクロ・ヘッジされており、よって観測不能なインプットの変動は、発行した仕組債の変動と反対の影響がデリバティブ金融商品に生じるため、損益に重要な影響を及ぼすことはない。

公庫は、金融商品を利用することにより市場リスクを排除するリスク管理戦略を追求している。この結果、レベル2およびレベル3に基づく公正価値を算出するのに用いられる見積りおよび仮定の変更による包括利益および持分への影響（正味ベース）は縮減されており、資金調達コストおよび貸付価格の変動を含むにとどまる。

2026年上半期におけるレベル間の組替えはなかった。

(単位：百万デンマーク・クローネ)

金融商品の公正価値の詳細

2026年6月30日現在

資 産

	レベル 1	レベル 2	レベル 3	合 計
信用機関への債権	68	0	0	68
貸付	0	196,752	0	196,752
証券ポートフォリオ	31,590	0	0	31,590
デリバティブ金融商品	0	9,287	273	9,560
資産合計	31,658	206,039	273	237,970

負 債

信用機関への債務	3	0	0	3
発行債券	0	223,861	2,414	226,275
デリバティブ金融商品	0	10,378	351	10,729
負債合計	3	234,239	2,765	237,007

2025年12月31日現在

資 産

信用機関への債権	139	0	0	139
貸付	0	189,348	0	189,348
証券ポートフォリオ	40,860	0	0	40,860
デリバティブ金融商品	0	10,437	286	10,723
資産合計	40,999	199,785	286	241,070

負 債

信用機関への債務	0	0	0	0
発行債券	0	225,301	2,731	228,032
デリバティブ金融商品	0	11,979	323	12,302
負債合計	0	237,280	3,054	240,334

(単位：百万デンマーク・クローネ)

レベル3の公正価値の詳細

2026年6月30日現在

資 産

	1月1日現在の残高	新 規	処 分	当期利益における認識額	6月30日現在
信用機関への債権	0	0	0	0	0
貸付	0	0	0	0	0
証券ポートフォリオ	0	0	0	0	0
デリバティブ金融商品	286	0	-64	51	273
資産合計	286	0	-64	51	273

負 債

信用機関への債務	0	0	0	0	0
発行債券	2,731	0	-318	1	2,414
デリバティブ金融商品	323	0	-4	32	351
負債合計	3,054	0	-322	33	2,765

	1月1日現在の残高	新 規	処 分	当期利益における認識額	12月31日現在
--	-----------	-----	-----	-------------	----------

2025年12月31日現在

資 産

信用機関への債権	0	0	0	0	0
貸付	0	0	0	0	0
証券ポートフォリオ	0	0	0	0	0
デリバティブ金融商品	251	0	-8	43	286
資産合計	251	0	-8	43	286

負 債

信用機関への債務	0	0	0	0	0
発行債券	3,022	0	-247	-44	2,731
デリバティブ金融商品	386	0	-12	-51	323
負債合計	3,408	0	-259	-95	3,054

注記4 金融商品の公正価値の詳細

公庫は、マスター・ネットティング契約（ISDAマスター契約）にクロス取引の支払いのネットティングについての合意が含まれる場合に、外国為替取引およびデリバティブを差金ベースで決済している。差金決済の場合は必然的に貸借対照表においてデリバティブの会計上の価額には相殺を含めることになる。相殺総額は、2025年12月31日現在で74億4,000万デンマーク・クローネであったのに対し、2026年6月30日現在で66億8,000万デンマーク・クローネとなった。

ISDAマスター契約にクロス取引の支払いのネットティングが含まれない場合、会計上の価額は相殺を含まない。相殺されていないデリバティブのネットティング金額は、取引相手ごとに算出される資産および負債のうち少額である方を上限とする。かかる金額は資産および負債の双方に計上される。

ISDAマスター契約には、デリバティブに関連する片務的または双務的担保契約が含まれる。これらの契約に基づく受入担保および差入担保は、高格付の債券のみからなる。担保価額は取引相手ごとに算出され、債券が担保として提供される金融商品の純額を上限とする。担保契約は、通常取引のためではなく専ら倒産の場合に備えて担保の相殺を認める。担保価値に対して相殺は適用されない。

公庫は、貸付、リースまたは発行債券に関して、ネットティング契約の締結および担保の差入れまたは受入れを行っていない。このためこれらの金融商品は以下の表に含まれていない。帳簿価額は貸借対照表から引用している。

(単位：百万デンマーク・クローネ)

貸借対照表において表示されたデリバティブ

	財政状態計算書上 相殺された金額			財政状態計算書上 相殺されていない金額		
	帳簿価額 総額	相殺額	帳簿価額	金融商品	担 保	純 額
2026年6月30日現在						
資 産	16,240	-6,680	9,560	-2,371	-6,731	458
負 債	17,409	-6,680	10,729	-2,371	-8,142	216
純 額	-1,169	0	-1,169	0	1,411	242
2025年12月31日現在						
資 産	18,163	-7,440	10,723	-2,994	-7,265	464
負 債	19,742	-7,440	12,302	-2,994	-9,179	129
純 額	-1,579	0	-1,579	0	1,914	335

注記5 主要な指標および財務比率

(単位：百万ユーロ／百万デンマーク・クローネ)

	2026年 上半期	2026年 上半期	2025年 上半期	2024年 上半期	2023年 上半期	2022年 上半期	2025年
	ユーロ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ
当期の主要な指標							
純受取利息および手数料	33	249	439	329	187	185	713
金融商品の価値調整	25	190	-516	-502	153	535	-552
人件費および管理費用	-14	-103	-101	-99	-100	-119	-206
貸付および債券等の減損	0	0	0	0	0	0	0
当期損益	35	262	-139	-212	187	468	-44
貸付およびリース	27,715	207,161	198,588	190,748	181,070	179,513	199,627
持分	1,386	10,361	10,004	9,968	9,953	9,243	10,099
資産	33,236	248,423	247,245	250,617	240,280	245,327	251,468
発行債券	30,273	226,275	224,333	226,063	211,642	221,784	228,032
証券ポートフォリオ	4,226	31,590	38,986	45,125	46,279	50,530	40,860
有形固定資産への投資	0	0	0	0	3	0	0
当期における活動							
貸付およびリース (額面価額の純増加額) (純貸付)	853	6,379	1,315	5,616	4,296	3,367	4,186
貸付およびリース (額面価額の総増加額)	2,937	21,954	21,304	20,439	16,508	16,912	44,054
発行債券 (額面価額の総増加額)	2,462	18,399	18,137	28,594	24,801	33,319	36,368

(単位：百万ユーロ／百万デンマーク・クローネ)

	2026年 上半期	2026年 上半期	2025年 上半期	2024年 上半期	2023年 上半期	2022年 上半期	2025年
	ユーロ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ	デンマーク・ クローネ
資本構成							
自己資本／最低資本要件	9.4	9.4	7.3	6.9	8.1	7.0	7.8
ソルベンシー比率（％）	75	75	59	55	65	56	63
Tier1（CET1）資本比率（％）	75	75	60	56	66	57	63
資本利益率（税引前） （税引前利益／持分）（％）	3.3	3.3	-1.8	-2.7	2.4	6.7	-0.4
資本利益率（税引後） （税引後利益／持分）（％）	2.6	2.6	-1.4	-2.1	1.9	5.2	-0.4
収益／費用比率	4.3	4.3	-0.8	-1.7	3.4	6.1	0.8
リスク・エクスポージャー総額（REA）	1,839	13,747	16,641	17,861	15,176	16,267	16,012
普通株式等Tier1（CET1）資本	1,386	10,361	10,004	9,968	9,953	9,243	10,099
自己資本	1,380	10,316	9,735	9,880	9,873	9,136	10,033
金利リスク	37	277	197	66	309	239	254
為替ポジション	8	57	211	1,037	873	394	241
預貸率（％）	91.6	91.6	88.5	84.4	85.6	80.9	87.5
貸出資本比率（％）	20.0	20.0	19.9	19.1	18.2	19.4	19.8
当期減損率（％）	0	0	0	0	0	0	0
総資産利益率（当期利益／資産合計）（％）	0.1	0.1	-0.1	-0.1	0.1	0.2	0.0
資産合計に対する持分の比率（税引後）（％）	4.2	4.2	4.0	4.0	4.1	3.5	4.0
費用／資産比率（％）	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.05	0.08
純受取利息／資産比率（％）	0.10	0.10	0.15	0.13	0.08	0.08	0.25
正規従業員数	100	100	101	104	102	94	100

主要な指標および財務比率は、公庫に適用される会計基準の規定に従い算出されている。

2026年6月30日現在の為替レート：100ユーロ＝747.458デンマーク・クローネ。

第 3 【外国為替相場の推移】

(1) 【当該半期中における月別為替相場の推移】

該当事項なし

(2) 【最近日の為替相場】

該当事項なし